

## 米国血管外科学会総会Vascular Annual Meeting2015発表報告

兵庫医科大学心臓血管外科

日本血管外科学会評議員・国際委員

米国血管外科学会員

山村光弘

### Annual Meeting of Society for Vascular SurgeryではなくVascular Annual Meetingなのか？

日本血管外科学会総会はAnnual Meeting of Japanese Society for Vascular Surgeryと表記されますが、現在米国血管外科学会総会はVascular Annual Meeting(以下VAM)と表記されます。米国血管外科学会(Society for Vascular Surgery以下SVS)は1947年設立されます。当時は米国しか血管外科学会はなかったからAmerican Society for Vascular Surgeryではありません。そして筆者が米国留学していた頃は米国心臓血管外科学会American Chapter of International Society for Cardiovascular Surgeryと合同総会でした。しかしご存知の先生も多いと思いますが、その後米国心臓外科医と米国血管外科医の立場について論争がおき、さらに国際心臓血管外科学会International Society for Cardiovascular Surgeryも解体しました。そのため2004年からは総会開催も吸収されVAMと表記されて現在に至っております。

### VAM 総会演題申込方法は？

毎年9-11月頃SVSホームページにVAM総会演題募集が掲示されます。締め切りは冬期休暇中の正月なので気をつけて下さい。VAM総会演題応募には演者ないし共同演者がSVS会員であるかまたはSVS会員の同意が必要なので、同意得るのさえ大変でした。これまでSVS日本人会員は7名しかいませんでしたが、最近やっとSVS日本人会員も増加し2014年米国血管外科学会日本支部Japanese Chapter of Society for Vascular Surgeryもできました。そのせいかこれまで例年本邦採用数は5題前後でしたが(2012年採用演題195題・採用率43%)、後述するように今年は大幅に増加しました。基礎研究部門は米国心臓病協会American Heart Association分科会であるArteriosclerosis Thrombosis Vascular Biologyで同時開催されるVascular Research Initiative Conferenceも応募すすめられますが、VAM総会Researchポスター発表を妨げるものではありません(詳細山村VRIC報告参照ください)。

### 今年の状況は？

今年は米国Chicago McCormick Placeで、6月17から20日の3日開催されました(プログラム表紙示す)。会員会費650ドルないし非会員会費850ドルとやや高額でしたが、15名の日本人事前参加者がありました。今年の特徴はInternational Fast Talk・International ForumとInteractive Posterの新設でしょう。これらによって今年度採用数379題(採用率54%)と増加しました。この米国外からの発表ワクと口述のない非選抜ポスターワクは、まさに我々日本人向けで、本邦から前者には3題・後者には5題採用があった(紙面都合で採用者名列記できず失礼します)。第2日目以降の口演には東京慈恵会

医科大学大木教授が多施設共同臨床研究2題発表され、口述のある Poster Competitionには川崎医大 Furukawa 先生・琉球大学國吉教授・慶応大学 Fujimura 先生の3演題に、筆者も加えてもらいました。さらに今年はVAMにて World Federation も同時開催だったので、これに発表された旭川医大東教授を加えると、筆者記憶では今年は最高の本邦14題が採用されました。

筆者が参加した Poster Competition は米国らしいポスター選抜発表であります。10部門ごとに発表者12名が3分発表・質疑2分しお互い評価点数化し、座長加え13名の評価から10部門の最高得点者が選抜されます。最高得点者には賞金支給され、翌日もう一度口演でき今度はフロアから評価点数化し、優勝者は3000ドル賞金もらえるという仕組みです。すべて投票で決まる民主主義的な方法は、まさに Society of the member, by the member, for the member と聞いています。また採点中流れるオルゴール音楽が印象深く、今年横浜で開催された第43回日本血管外科学会総会に来日講演された Peter Lawrence SVS 会長が2011・2012年総合座長されました。

以上 VAM の背景・申込方法・今年状況を報告したので、先生方のご参考にして頂ければ幸いです。

